

# 会報

## 年頭所感



会長 小芝 一臣

明けましておめでとうございます。平成 29 年の年頭に当たり、御挨拶申し上げます。

はじめに昨年を振り返りますと、まず思い起すのは熊本地震での被害についてです。昨年 4 月に熊本県、大分県を中心として、震度 7 を 2 回、6 強を 2 回、6 弱を 3 回も記録するほどの大きな地震がありました。年が明けた今でも復旧が進んでいない箇所もあり、熊本県の高等学校の中には今年の 4 月まで体育館が使用できない学校が数校あります。一日も早い復興、復旧をお祈りするとともに、全国高等学校教頭・副校長会としても今後もできるだけの支援をしていきたいと考えております。

また、台風の被害も昨年は多く出ており、8 月には 1962 年以来 54 年ぶりに 4 個の台風が日本に上陸しました。特に台風 10 号は気象庁が統計をとつてから初めて太平洋から東北地方に直接上陸し、東北地方や北海道地方に大きな被害が出ました。

また、自然災害による被害ではありませんが、11 月には東京の都心で気象庁の観測史上初の積雪を観測しました。さまざまな自然の脅威を改めて実感した年になりました。

さて、話は変わりますが、私は、各高等学校において校長を補佐し、学校教育を司る立場の我々教頭・副校長にとって自校の教育課程の編成は最重要事項であると考えています。ご存じのように、現在国の方では、その教育課程編成のバイブルとも言える学習指導要領の改訂作業が進められております。昨年 8 月には中央教育審議会教育課程部会から「次期学習指導要領の改訂に向けたこれまでの審議のまとめ」が出され、12 月 22 日には文部科学大臣に「答申」が出されました。これによって、次期学習指導要

平成 28 年度

NO.96

全国高等学校教頭・副校長会

領は小学校では平成 32 年度から、中学校では平成 33 年度から全面実施、高等学校では平成 34 年度から年次進行で実施となる予定です。先日の研修会で御講話をいただいたところによりますと、今回の改訂のポイントとしては、教育課程に関する基本原則を示す「総則」を「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から抜本的に改善する点であり、また、学習指導要領でこれまで長年用いられてきた「見方・考え方」の内容を改めて明らかにし、これを軸とした授業改善の取組を活性化しようとする点であるとのことでした。

國の方では「答申」を受け、具体的な作業に入って行くことになりますが、このたびの学習指導要領改訂が高大接続を踏まえた真の学力の育成につながるものになることを大いに期待していきたいと思います。

ところで、私は昨年 8 月に会長職に就いてから、できるだけ多くの地区大会に出席させていただいております。今年度は、北信越地区富山大会、東北六県秋田大会、関東地区埼玉大会、北海道大会、東京大会に出席させていただきました。その挨拶の中で必ず言わせていただいているのは、この教頭・副校長会の最も重要な意義は、研修・研鑽の確保と情報交換にあるということです。学校を取り巻く状況は日々変化しており、いつまでも古い体質や考えのもとでは、これから子供たちを育てていく教育は行えません。自校の校長とともに学校を適切に運営していくために、日々の研修と研鑽は欠かせません。また、県内だけでなく他の都道府県を含めて広く情報を交換する機会は大変重要になっております。ただし、忘れてならないのは、このような研修・研鑽の機会や情報交換ができるのも自校の校長の理解があればこそということです。我々教頭・副校長会はそのことをきちんと理解した上で、今年も研修・研鑽に励み、活発な情報交換をしていきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願ひします。

(千葉県立長生高等学校 教頭)



## 新年のご挨拶

全国副会長  
福島県会長  
松尾 幸生

新年おめでとうございます。  
平成29年の年頭にあたり全国高等学校教頭・副校長会の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、今年度4月に福島県教頭会会長を仰せつかり、初めて全国の総会・研究協議大会等に参加させていただきました。全国大会では、各都道府県の現状や教育関連の最新の情報を得ることができ、誠に有意義でありました。これらは私個人のものに留めることなく、本県教頭会会員に広く伝達し、情報を共有することに努めなければならないと考えております。また、総会の後には東京都立白鷗高等学校長唄三味線部によるすばらしい演奏があり、中でも「小鍛治」は私が趣味としております能の演目の中にもあり、大変興味深く鑑賞させていただきました。東京大会運営委員長を務められました東京都立江東商業高等学校副校長 加瀬きよ子先生をはじめ、準備、運営にあたられました東京都の先生方そして事務局の皆様に深く感謝申し上げます。余談ではございますが、私は会津能楽会で能を楽しんでおります。「小鍛治」は、平成18年の薪能で上演いたしました。本会のホームページ (<http://www.aizu-noh.aizu.or.jp/>) に記録がございますので、ご覧いただければ幸いです。田舎能でございます。

さて、今年の全国大会は岡山県倉敷市において開催されることとなっております。当面する教育課題に関する最新情報を盛り込んだ講話や地元高校吹奏楽部生徒によるマーチング歓迎公演なども予定されており、また、倉敷の土地柄に触れられることも大変に楽しみでございます。岡山県の教頭・副校長先生方には大変ご苦労をおかけいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本年が皆様にとりまして幸多き年となり、本会が益々発展しますことを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

(福島県立福島高等学校 教頭)



## 新年のご挨拶

全国副会長  
福田 洋三  
全国総務部長

明けましておめでとうございます。

平成29年の年頭にあたり全国教頭・副校長会の皆様に御挨拶を申し上げます。昨年、東京都は10年ぶりに主管として、全国大会を開催し、全国から約650名の御参加を頂き、誠に有難うございました。都の補欠募集や教員公募説明会等の日程と重なる中、直前まで運営マニュアルに手を入れ、加瀬きよ子運営委員長の下、都の副校長先生と事務局の皆様のチームワークと御尽力で、無事終了することができました。他道府県のように開催地の紹介はできませんでしたが「おもてなし」は如何でしたでしょうか。

さて、リオ五輪の昨年、海外では英国のEU離脱、米国大統領選トランプ氏勝利、韓国大統領弾劾案、国内では北海道新幹線開業、熊本地震、東京五輪新エンブレム、新元素名ニホニウム、選挙権年齢18歳以上の初の選挙、小池百合子新都知事、築地市場移転延期、大隅氏ノーベル賞等教育にも影響するようになりました。

私は、全国教頭・副校長会の仕事は、3年目でしたが至らないところも多い中、他の道府県の理事の方から、様々な情報や実践・実情を得ることができ、貴重な機会と思っています。埼玉県での関東大会に参加し、JR東日本メカトロニクス(株)社長椎橋章夫氏の講演を聞くことができました。Suica開発者の新しい社会インフラ創造への示唆に富む貴重ですばらしい内容でした。大会での研究発表は、優れた実践や調査分析で、日々の業務に役立ち、新しい視点を貰える貴重な情報交換や交流となり、改めて人と人のつながりの大切さを感じりました。

さて、東京都は、小池都知事の都民ファーストの実現に向けた都政改革の中、教育施策の大きな変化はまだ見えませんが、教育予算が従来と変わってくるのかどうかを注目しています。

今後とも本会の益々の御発展と皆様の御健勝を記念して挨拶といたします。

(東京都立石神井高等学校 副校長)



## 新年のご挨拶

全国副会長  
三重県会長 山口 雅弘

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり全国教頭・副校長会の皆さまにご挨拶申し上げます。昨年は、三重県立学校教頭会の会長、全国高等学校教頭・副校長会の副会長として、数多くの貴重な経験をさせていただきました。皆さまには多大なるご支援をたまわり、感謝の気持ちで一杯です。中でも、現在進められている中教審や教育再生会議の詳細を通じ、次期学習指導要領の改訂に向けた考え方などを学ぶ機会を得たことは私の教員人生にとっても、有意義なものであり、三重県全体でも情報共有しているところです。

さて、昨年は、三重県伊勢市を中心に G7 伊勢志摩サミットが行われ、全国の皆さまに三重県を改めて知っていただく機会ともなりました。これに先立ち、各国を代表する青少年チームが、首脳会合と同調する議題について討議する『2016 年ジュニア・サミット in 三重』も開催されました。「次世代につなぐ地球環境と持続可能な社会」をメインテーマに、4 つのサブテーマごとに分科会形式で議論を行い、そのまとめを内閣総理大臣に提言するなど、世界に向けて若い力と英知を発信しました。本校生徒 1 名も代表として参加しましたが、世界の若者が地球の未来を真剣に考え行動に移そうとする強い意志を感じ、大きな刺激を受けたようです。

また、昨夏には『第 10 回国際地学オリンピック』も三重大学を主会場に開催されました。26カ国から 100 名もの選手が参加し、三重各地におけるフィールドワークを含めた競技に取り組むとともに、三重県宣言 IESO2016 「地球温暖化防止のために私たちができること」を発表するに至りました。

振り返りますと、三重を舞台に、世界中の若者が輝きを放ってくれた 1 年でしたが、今後も、高校生たちが輝くことのできる教育活動推進の一助となるよう努めたいと考えております。

(三重県立四日市高等学校 教頭)



## 新年のご挨拶

全国副会長  
長崎県会長 平山 啓一

平成 29 年という新たな一年が始まり、全国高等学校教頭・副校長会会員の皆様におかれましては、決意も新たに職務に励んでおられることと存じます。

さて、平成 28 年度は県会長に加え、中国・四国・九州ブロック選出の全国副会長まで拝命することとなり、多方面にご迷惑をおかけしながらも、大変貴重な経験をさせていただきました。全国理事研究協議会では、教育改革や次期学習指導要領に係る先端の情報とともに、他県の副校長・教頭先生方から有意義な情報をいたくことができ、大変有意義な機会となりました。中でも、「どのような生徒を育てたいのか」「人間として求められる力とは何か」「それを学んでどのような力が身につくのか」等の問いかげには、副校長・教頭の立場にある者がこれから何を為すべきかを深く考えさせられました。

近年、国際社会の急速なグローバル化の波に押されるように、学校が果たすべき人材育成にも変容が求められています。特に、高校は社会へのトランジションとして、今は存在しない仕事への準備、つまり「未来へ備える力」の育成に努めていかなければなりません。一方で、先の熊本・大分地震で学んだ学校の危機管理についても管理職として不断の構えを持っておかなければなりません。私たち副校長・教頭に課された責任は大変重いのですが、今後も皆様に学びながら努力していきたいと思います。

ところで、次年度は本県にて九州各県高等学校教頭・副校長研修会長崎大会を開催いたします。今年度の佐賀大会で学んだことを生かして、充実した大会となるよう、県会員一同、準備に努める所存です。

最後となりましたが、本年が皆様にとって実り多き一年となるとともに、本会がますます発展することを祈念いたします。

(長崎県立長崎東高等学校 教頭)



## 第 56 回岡山大会へのご案内 「晴れの国 岡山へ」

全 国 理 事  
岡山大会準備委員長 秋葉 直之  
岡 山 県 会 長

第 55 回全国大会が首都東京で盛大かつ成功裏に開催されましたこと、加瀬大会運営委員長をはじめ、主管されました東京都公立高等学校副校長協会及び関係の皆様に敬意を表します。また、お忙しい大会運営のさなか、詳細な引継資料や多くの温かい助言等もいただき、感謝申し上げます。

さて、第 56 回岡山大会の統一主題は『心豊かに、たくましく、未来を拓く人材の育成を目指して』～よりよい社会づくりに参画する力を育てる高校教育の推進～とさせていただきました。現在、教育はもとより社会全体の情勢が大きく変化する中で、自立した一人の人間としてたくましく生きる力、自他共に尊重し主体的に社会と関わる能力、世界に視野を広げ、よりよい社会づくりに参画する心を持つ人材の育成が求められています。こうした社会的要請に応えうる高等学校教育の今、そしてこれからの姿や課題について考えていけたらと思います。

大会のメイン会場となる倉敷市民会館は、岡山県を代表する観光地倉敷美観地区と隣接した場所にあります。美観地区には大原美術館をはじめとした文化施設も数多くございます。歴史と文化の香り高いこの地で、未来を担う人材の育成を目指して研究協議大会を主管し開催できるのは、本県教頭・副校長会にとりましても誠に意義深いことです。

全国の副校長・教頭先生方には、ぜひ当地へお越しいただき、大会へのご参加以外にも「晴れの国」岡山の文化を味わっていただきたいと思います。本県会員一同心からお待ち申し上げます。

(岡山県立西大寺高等学校 副校長)



## 平成 28 年度研究部報告

全 国 研 究 部 長  
全 国 常 任 理 事 杉 森 共 和  
東京都全日制部会長

平成 28 年度は全国研究部会を 8 月 3 日 (水) 13 時から東京都千代田区の星陵会館 3 階会議室にて開催しました。

出席者は、全国新旧会長、研究部長、研究部副部長 9 名、研究委員長 3 名、本年度大会運営委員長、副委員長、事務局長、次年度大会準備委員長、副委員長、事務局長、全国事務局長、事務局次長、東京都担当者の 24 名でした。

会長、研究部長の挨拶に続き、協議事項として、大会研究発表の確認、研究集録の編集について、調査研究集の編集について、第 2 回理事研究協議会全国テーマについて、本年度地区研究協議会の状況・予定についての 6 テーマ等について協議いたしました。

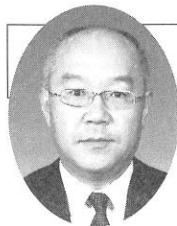
また、8 月下旬には、研究部長、管理運営研究委員長、高校教育研究委員長、生徒指導研究委員長と事務局が参加した編集委員会で、研究集録 41 号に収録する以下の 9 題の論文を選定しました。

管理運営研究部門 3 題は、愛知県『活力ある教頭職を目指して』一意欲的に取り組める教頭職にするための方策を求めてー」、奈良県「学校の組織力の向上」、長崎県「働きやすい職場環境づくりのために」です。高校教育研究部門では、山形県「平成 26・27 年度研究 高校教育の質の確保・向上について～各高校の取り組み状況～」、千葉県「高等学校における『グローバル人材育成』の現状について」、岡山県「社会貢献活動の取り組みに関する調査研究Ⅱ」の 3 題です。生徒指導研究部門は、茨城県「教育相談における現状と課題について」、埼玉県「今高等学校に求められている特別支援教育の現状と課題～インクルーシブ教育システム構築に向けて～」、福岡県「道徳教育の効果的な指導～いじめ撲滅に向けて～」の 3 題で、計 9 題となります。

いずれも質量ともに充実した研究内容で、皆様にとって大いに参考となる内容であると感じています。

(東京都立小松川高等学校 副校長)

## 地区研究協議会報告



### 北海道地区

全国理事  
北海道事務局長 岩田 努

365 名の会員からなる北海道高等学校教頭・副校長会は例年 5 月と 11 月の 2 回、全道から会員が集まり、研究協議会を開催しています。

#### ○総会・第 1 回研究協議会

期日 5 月 18 日（水）・19 日（木）  
会場 札幌市 ホテル ライフポート札幌  
参加者 326 名

1 日目の開会式では開会に先立ち、先の熊本地震で亡くなられた方への黙祷を行った後、札幌南高の家近会長が「我々管理職は高大接続改革や次期学習要領改訂への対策、いじめ防止・根絶への積極的な取組、特別支援教育の充実、政治的教養教育等、直面する課題への対応に迫られているところであるが、本会は常に高校教育をリードし、今後ともその発展のために日々精進して参る所存である。」と述べ、新体制のスタートを切りました。さらに、ご来賓の北海道教育庁教育指導監、札幌市教育委員会教育長、全国高等学校教頭・副校長会会长からご挨拶を賜り、励ましと期待に包まれて今年度の総会・研究協議会が始まりました。

総会後の全体会Ⅰでは、北海道教育庁教育指導監に「教頭・副校長に望むこと」と題して講話をいただきました。「校長に望まれていること」、「補佐する手順」、「校長としてのリーダーシップの発揮」、「補佐としての機能を発揮するために」、「これからの中学校運営に向けて」等をポイントとし、それについて重点を示しながら、ご助言をいただきました。

続いて、北海道高等学校長協会会长に、「本道高等学校教育の動向について」と題して講話をいただきました。「全国・全道の教育改革動向」、「高等学校長協会の課題」、「高校教育の今日的共通課題」、「課題への向き合い方」、「副校長と教頭のリーダーシップとフォロワーシップ」、「教職員のメンバーシップを育てる」等をポイントとし、国や道の動向を整理し、改めて各学校における課題解決に向けて更なる意欲を喚起する

機会となりました。

講話後の全体会Ⅱでは、滝川高校から「SSH 研究指定を契機とした学校改革の取り組み」と題し、SSH の指定を受けてから 1 期目 3 年間、多くの生徒や教職員が知恵を絞り、より良い研究を目指して一定の成果をあげてきたことについて提言が行われ、1 日目を終了しました。

2 日目は 3 領域で分科会を実施しました。

#### (1) 「管理運営」

「『生徒の自主と自信を育む教育の推進』～大学科併置校のキャリア教育～」（紋別）

統廃合によりできた三大学科の長所を伸ばし、各学科が協力関係を築いていくためのキャリア教育のマニュアル化、総合的な学習の時間におけるチーム別学習、共通の進路活動等、様々な取り組みを行っている。

#### (2) 「教育課程・学習指導」

「我が国の農業科学技術系人材を育成する農業科学教育プログラムの研究開発～SSH 事業の実践と課題～」（岩見沢農業）

25 年度から SSH の指定を受け、4 年目を迎えて課題解決能力や論理的思考力を高める学習プログラム、農業科学プログラム、国際性を高める学習プログラムの研究開発等、様々な教育活動に取り組んでいる。

#### (3) 「生徒指導・進路指導、特別活動」

「効果的な進路指導を目指して～学校全体で取り組む進路指導～」（登別青嶺）

学内の活性化委員会の提言により、メンター（良き指導者）制度を導入することで全教職員で生徒を育てるという協働意識が高まり、きめ細かな進路指導の実践につながっている。

「『21 世紀型能力』を意識したカリキュラムマネジメント～生徒の個性を伸ばし、正解のない社会に自律的に生きる人材の育成を目指して～」（幌加内）

学びの質を向上させるためのイノベーションとして観点別評価の導入、ベーシックスタディ、アンテナショップ運営体験、土曜授業、体験実習の強化等の様々な教育実践を展開している。

各発表を参考に、自校の学校力向上につなげるための熱心な研究協議が行われました。

#### ○第 2 回研究協議会

期日 11 月 18 日（金）

会場 札幌市 ホテル ライフポート札幌  
参加者 310 名

全国大会開催のため、2 年振りの開催となっ

た第2回研究協議会は、講演と学校課題解決に向けたグループディスカッションの2部構成で行いました。講演講師は、北海道を代表するコンビニエンスストアの「セイコーマート」を開設する企業である(株)セコマ 代表取締役社長の丸谷智保氏にお願いしました。「北海道の資源を生かす～セコマの経営戦略～」と題して、北海道の資源(農作物・水産物・酪農製品・水・自然)を生かし、物流を核とした独自の経営戦略についてご講演をいただき、経営者の視点から学校経営に活かすための示唆を得ることができました。また、午後からの研究協議では、テーマを「学校組織を有効にマネジメントするために」とし、(株)アムリプラザの丸山宏昌氏をファシリテーターに迎え、グループで「ワールドカフェ」形式による意見交換を通して、課題解決のための研究協議を行いました。

この「ワールドカフェ」の手法は各校において、校内研修等でも活用されています。

(北海道札幌西陵高等学校 副校長)



## 東北地区

全国常任理事  
研究副部長 畠山 真一  
秋田県会長

東北六県高等学校教頭・副校長会研究協議大会は、10月20日～21日に秋田市の秋田キャッスルホテルを会場に行われました。小芝会長をはじめ、秋田県教育委員会・秋田県高等学校協会会長をご来賓に迎え、東北各地から121名の先生方に参加していただきました。

1日目は、開会行事に引き続き「副校長・教頭の勤務実態と多忙感・ストレスの要因変化について」と題して秋田県立湯沢翔北高校の佐藤和実先生が管理運営部門の発表をしてくださいました。平成21年度に多忙感やストレスについてアンケート調査した結果と今回の調査結果を比較・分析した内容でした。引き続き、「青森県立十和田西高等学校の学びと課題～受け継ぐ伝統、築く未来～」と題して青森県立十和田西高校の梅村淳先生が高校教育部門の発表をしてくださいました。十和田西高校は、不登校・特別指導事案がほとんどない穏やか生徒たちであり、県内唯一の観光学科を開設している。体験活動を活発に行っているが、それがなかなか学習につながらないという課題も抱えている。そ

の課題を解決するための新たな取り組みについての発表でした。

その後、「人事評価をする際の課題について」と「校内における人材育成～ベテラン教員の経験の若手への継承～について」の2本をテーマに各県で情報交換が行われました。人事評価については、秋田県を除く5県が取り組んでおり、とても参考になる内容でした。また、「校内における人材育成」については、その重要性は認めるものの、若手の先生自体がほとんどいる年齢構成の中にあって、どの県も手探りの状態であると感じました。

最後に、教育懇談会が行われ、少しリラックスした場で活発な情報交換が進みました。少しばかりですが、秋田の地酒も味わっていただけたかと思います。

2日目は、「情報モラル違反・ネットトラブル等の事例と事案発覚・発見の経緯、並びに指導内容」と題して、岩手県立紫波総合高校の工藤清美先生が生徒指導部門の発表をしてくださいました。県内各高校・特別支援学校から寄せられた205件の事案を類型別に分類し、各事案の共通点・相違点、および特徴として読み取れるポイント等についての分析・考察でした。

紙上発表は、山形県立酒田光陵高校の庄司豊先生、宮城県古川黎明高校の遊佐忠幸先生、福島県立平商業高校の佐藤知永先生が、それぞれ「教職員人事評価について」「チーム黎明」としての特色ある取組」「平商業の生徒指導実践例と教頭の関わり方について」と題して発表してくださいました。

最後に記念講演がありました。講師に、日経BP社執行役員の麓幸子先生をお迎えして、「女性が輝く職場の条件とは」と題して、日経ウーマンや日経ウーマンオンライン編集長を歴任した先生の豊富な経験に基づく貴重なお話をしてくださいました。

今回の協議会では、様々な情報を得ることができました。これから学校運営の参考にしていきたいと考えています。

今回、運営委員長を務めさせていただきましたが、きちんとできるか不安に感じていたところ、秋田県の先生方から多大なご協力をいただき、無事終了することができました。感謝申し上げます。最後に、来年度の山形大会の成功を祈念し、私の報告を終わります。

(秋田県立秋田明徳館高等学校 副校長)



## 関東地区

全国理事 高木祐一  
埼玉県会長

### 平成 28 年度関東地区高等学校教頭・副校長会研究協議会埼玉大会

期日：平成 28 年 11 月 18 日（金）

会場：さいたま市文化センター

主管：埼玉県高等学校等副校長・教頭会

参加者：224 名（東京都 21 名、茨城県 12 名、栃木県 7 名、群馬県 13 名、千葉県 23 名、神奈川県 10 名、神奈川 3 市 4 名、山梨県 7 名、埼玉県 127 名）

テーマ：「生きる力と絆を深める教育の推進」

開会式では、御来賓の全国高等学校教頭・副校長会会长の小芝一臣様をはじめ、埼玉県教育局県立学校部副部長の渡邊亮様、埼玉県高等学校長協会会长で埼玉県立熊谷高等学校長の春山賢男様より御挨拶をいただいた。

開会式終了後、JR 東日本メカトロニクス株式会社代表取締役社長の椎橋章夫様をお招きして、「S u i c a ペンギン空を飛ぶ！－新しい社会インフラ創造への挑戦－」という演題で御講演をいただいた。椎橋様は、埼玉県の御出身で、旧国鉄に入社後、民営化された東日本旅客鉄道株式会社で S u i c a の開発に当たられた。国鉄から JR への改革は、「提供する側の視点」から「使う人の視点」への意識改革であったと振り返る椎橋様から、JR 改革がなければ S u i c a は生まれなかつたというお話を伺った。

午後の研究協議では、4 県から発表があり、発表に対して、埼玉県教育局県立学校人事課学校管理幹の高岡豊様と埼玉県高等学校長協会副会长で埼玉県立春日部高等学校長の益子篤行様より御指導、御助言をいただいた。それぞれの研究発表の内容を以下で紹介する。

1 「生きる力と絆を深める教育の推進」

山梨県立農林高等学校 宮川尚巳

農林高校では、5 学科の生徒が「生命」「環境」「食」を柱とした学習に取り組んでいる。この 3 つの柱は「生きる力」の根幹をなすもので、生きた知識と確かな技術の習得に努めている。「生きる力」を高めるキャリア教育として、農業クラブ活動の推進、インターンシップとデュアルシステムの実施、基礎学力の育成、などに取り

組んでいる。また、地域社会や特別支援学校との交流により「絆」が深まった。

2 「言語活動の充実について～アクティブ・ラーニング（A L）の推進に向けて～」

茨城県立大子清流高等学校 浅野雅裕  
茨城県の進路・学習指導委員会で実施したアンケートに関する発表があった。A L はほぼ全ての学校で「さらに推進させたい」という意識はあるものの、「授業進度が遅れる」といった危惧が半数以上の学校から寄せられた。今後の展望として、「大仰に構えずに A L の手法を少しづつ取り入れ、授業を進化させたい」という意見が出された。

3 「地域連携と原動機付自転車通学の安全に向けた対策」

千葉県立東総工業高等学校 横田正廣  
千葉県立多古高等学校における町をあげの取組について発表があった。「さわやかおはようタイム」や「町内パトロール」の実施を関係機関とともに進めている。コミュニティー・スクール指定の下、町民による「朝のあいさつ運動」の実施は、原付自転車のマナーアップに貢献している。町の連携と生徒指導は、車の両輪であると結ぶ力強い発表であった。

4 「グローバル教育における生きる力と絆を深める教育の推進」

神奈川県立横須賀明光高等学校 岡花弘幸  
国際科と福祉科を持つ横須賀明光高校からは、米国メリーランド州ケイトンズビル高校を訪問しての 8 泊 10 日に渡る姉妹校交流事業と、文教大学の教授・学生との連携による英語での 1 分間スキット作成・発表 1 日講座についての発表があった。いずれも、消極的な生徒に積極性がもたらされ、小さな変化が大きな変化につながるダイナミックな実践であった。

閉会式では、次年度開催県の神奈川県から挨拶と紹介があり、研究協議会を閉じた。

（埼玉県立春日部高等学校 教頭）



## 東京地区

全国理事 榎茂喜  
東京都副部会長

平成 28 年度東京都立高等学校副校長研究協議会を教育庁指導部及び各地区的学校経営支援セ

ンターのご支援をいただき平成 28 年 10 月 17 日(月)に東京都教職員研修センター研修室を会場として実施いたしました。例年の 8 月開催と異なり、10 月での開催となりましたが、156 名の副校長が参加いたしました。

分科会では、研究主題を『都民に信頼される魅力ある都立高校づくりを目指して』として、4 つの分科会(管理運営、高校教育、生徒指導、定時制通信制)において 7 つの主題の研究発表及び研究協議を行い、活発な質疑応答が交わされ、教育庁指導部の統括指導主事及び指導主事の先生方から指導講評をいただきました。

全体会においては、『講話をとおして高校教育の未来を展望し、学校経営に主体的に参画できる副校長としての識見を高める』ことを目指して、喫緊の問題である「教育・入試改革の方向性について」の講話をいただきました。

分科会(午後 1 時 30 分から午後 3 時)

第 1 分科会(全日制 管理運営研究部)

111 研修室

発表① 主題:「障害者差別解消法の施行に向けた各学校の取組について」

第一委員会 西部 B チーム

山本 勇(八王子東)

発表② 主題:「『人間と社会』における体験活動の実施について」

第二委員会 東部 B チーム

近藤 安彦(蕨前工業)

指導講評:教育庁指導部高等学校教育指導課  
統括指導主事 久保田 聰先生

第 2 分科会(全日制 高校教育研究部)

B223 研修室

発表① 主題:「新教科『人間と社会』について」

第一委員会 東部 D チーム

穂積 振司(江戸川)

発表② 主題:「主権者教育に関する各校の取組についての研究」

第二委員会 西部 D チーム

関山 勝之(東村山)

指導講評:教育庁指導部高等学校教育指導課  
指導主事 山崎 聰子先生

第 3 分科会(全日制 生徒指導研究部)

B222 研修室

発表① 主題:「都立学校における授業外の学習時間の確保あるいは増加

のための取組」

第一委員会 中部 B チーム

松井 章朗(雪谷)

発表② 主題:「SNS 利用に対する各校の取組について」

第二委員会 中部 D チーム

平柳 伸幸(農芸)

指導講評:教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 久保 静生先生

第 4 分科会(定時制・通信制)

703 研修室

発表① 主題:「ユースソーシャルワーカーとの連携について」

東部研究委員会

佐藤 俊彦(工芸)

指導講評:教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 宮川 麻衣子先生

各分科会とも充実した調査研究による発表が行われ、活発な協議のあと貴重な指導助言を頂きました。

全体会(午後 3 時 20 分~午後 5 時)

121 研修室

福田 洋三 東京都公立高等学校副校長協会長、小芝 一臣 全国高等学校教頭・副校長会長、藤井 大輔 指導部高等学校教育指導課長よりご挨拶を頂いた後、「教育・入試改革の情報整理と今後の方向性について」と題して、株式会社ベネッセコーポレーション、藤井 雅徳様から講話を頂きました。指導要領や大学入試が大きく変わろうとしています。このような新しい教育の流れに対して、知識や理解を深め、今後の対応など学校の組織的な運営に向けて大きな参考となるものでした。

(東京都立武蔵高等学校 副校長)

## 北信越地区



全国常任理事

研究副部長

山形 隆

富山県会長

平成 28 年度北信越地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会

主管:富山県高等学校教頭会

日時:平成 28 年 11 月 10 日(木)

~11 月 11 日(金)

場所:ホテルグランテラス富山

今年度の北信越地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会は富山県高等学校教頭会を主管とし、「『社会の変化に対応できる力を高める高校教育の推進』～未来を創造する人づくり～」という今年度の全国統一主題のもと、上記の日程、会場で開催された。北信越地区 5 県のうち県外(福井、石川、新潟、長野)から 69 名、富山県内から 126 名、計 195 名の会員の参加を得た。

連絡協議会初日、開会式では来賓祝辞として全国高等学校教頭・副校長会会长小芝一臣氏に続き、富山県教育委員会から教育次長 川腰善一氏、そして富山県高等学校長協会会长 坪池 宏氏から祝辞を賜った。

研究協議Ⅰでは、富山県高等学校教頭会から富山地区教頭会が「高校教育」の研究課題「自ら学ぶ力を育成するために～富山県における実践と成果」と題して、昨年来、調査研究を重ねてきた成果をまとめ研究発表を行った。県下全てのアクションプランを集約した資料に基づき、各校が生徒の実状を踏まえ、学習時間の目標設定、進路支援での重点課題など、いかに生徒の自ら学ぶ力を育成するための教育目標を設定し、実践と反省のもと次年度にそれをつなげているかを考察するものであった。またインクルーシブ教育に関するアンケート調査結果も報告され、大いに参考とすべきものであった。

その後、福井県、石川県、新潟県、長野県、富山県の会長から、それぞれ各県の高等学校教育の現状と課題の報告があった。いずれの県も独自の工夫をしつつ、生徒の学力伸張、特に統一主題に示された「社会の変化に対応できる力をいかに身につけさせるか」という課題に積極的に取り組んでおられることがひしひしと伝わってきた。教頭・副校長の役割は県によって違いがあるものの、生徒数の急激な減少に伴う高等学校や特別支援学校の統廃合が喫緊の課題となる中、探求的な学ぶ力の育成、ＩＣＴ機器の活用、主権者教育、さらにはさまざまなハンディを持った生徒への支援のあり方やスマホ・ＳＮＳ等情報機器に伴う生徒指導の問題など教育課題は実に多岐にわたる。その中にあって、現場の教職員をチームとして結束させ、教育活動を活性化させようと日々努力しておられる会員の姿が目に浮かぶようであった。

続いて、富山県教育委員会 県立学校課主幹 串田至人氏から「富山県高等学校教育の現状と課題」と題して講話をいただいた。串田氏から

は富山県教育振興基本計画に基づく重点施策の体系として 7 つの柱が示された後、それぞれにおいて具体的に事業がどのような形で展開されているか示された。高大接続に加え、小中高の連携、特別支援学校との連携、地域との連携といったヨコの糸と、グローバルな人材の育成、富山の発展に貢献できる人材の育成、さらには教員の授業力向上と若手教員の育成を目指すといったタテの糸が織りなす、言わば地の厚い、それでいてフィット感のある教育体制を構築しようとする趣旨の講話であった。

協議会初日を締めくくる教育懇談会が同ホテルで行われた。来賓、会員を含め 158 名が一同に集い、富山の地酒 17 銘柄を酌み交わしながら県外会員と県内会員が卓を囲み胸襟を開いて話せたことで大いに親睦の輪が広まった。

協議会二日目は富山県立高岡高等学校の教頭 大浦英治氏から「ＳＧＨ及び探求科学科の取り組み」が報告された。同校では「幅広い教養と課題解決力を備えるとともに、ふるさとに誇りと愛着をもったグローバル・リーダーの育成を目指す」との基本方針のもと、在籍する 3 年間を見越して、主体性を重んじた様々な取り組みが構造化されている。中でも異文化理解を目指す土台として、ふるさとの伝統文化を据えている点が同校の特色だが、生徒自らが探求課題を設定するために十分な時間を与えているという報告は示唆に富むものであった。

協議会の最後は、株式会社 四十物昆布代表 取締役社長 四十物直之氏による講演であった。「身近な昆布で再発見」と演題が示すとおり、富山県民の食卓、健康に欠かせない昆布という食材を通して、話題は歴史、経済、文化、日本国民のアイデンティティにまで縦横に広まった。こうして二日間の協議会は幕を閉じた。全日程にご臨席いただいた小芝全国高等学校教頭・副校長会会长、そしてご参加いただいた北信越地区の会員の皆様に改めて心から感謝申し上げます。

(富山県立魚津高等学校 教頭)



## 東海地区

全国常任理事  
研究副部長 永井 博  
愛知県会長

平成 28 年度東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会及び研究協議会

期日：平成 28 年 10 月 21 日（金）

会場：岐阜県岐阜市 ホテルグランヴェール岐山

主管：岐阜県立学校教頭協会

参加者：184 名（岐阜県 92 名、愛知県 33 名、名古屋市 13 名、静岡県 28 名、三重県 18 名）

### （1）総会

岐阜県教育委員会高木俊明教育次長、岐阜県高等学校校長協会浅井正美会長、全国高等学校教頭・副校長会瀧澤隆司顧問より御祝辞をいただき、岐阜県教育委員会教職員課小野悟課長補佐、岐阜県高等学校教頭協会林博泰顧問のご臨席のもと総会を開催した。

総会では平成 27 年度の事業報告、決算報告・会計監査報告、平成 28 年度の役員改選、事業計画、予算について報告・提案し、承認された。

### （2）研究協議会

午後の研究協議会では、次の 4 題の発表があり、岐阜県教育委員会学校支援課高田広彦教育主管、岐阜県教育委員会学校安全課鈴木彰生徒指導企画監から指導講評をいただいた。

#### 研究協議 I

教頭の職務をいかに遂行するか～研究部会の取り組み～

（愛知県立吉良高等学校 小山 信幸先生、同 知立東高等学校 伊豫田 祥子先生、同 安城南高等学校 手嶋 修一先生、同 西尾東高等学校 川澄 誠先生）

学校が解決すべき課題は多種多様で多岐にわたる。この問題に対して教頭は、リーダーシップを發揮し、迅速かつ適切に解決していくことが、求められている。愛知県立学校教頭会では、教頭が自信を持って職務に取り組めるよう研究部会、第 1 専門委員会および第 2 専門委員会という組織を置いている。その中で、研究部会の取り組みが紹介された。年 2 回開催される新任教頭研修会と学校運営や勤務・服務、様々な危機管理についてまとめた「教頭の手引き」について具体的に紹介された。

### 研究協議 II

職員室・研究室の使用状況と学校経営への影響  
(静岡県立土肥高等学校 齊藤 篤先生)

静岡県高等学校等副校長・教頭会三島田方地区の研究として、規模や設置学科が多様な地区 5 校（韮山高校、伊豆中央高校、田方農業高校、伊豆総合高校）の「空き時間」における教員の執務場所を切り口として、(1) 教員の育成、(2) 不祥事対策等の服務管理、(3) 学校経営計画の浸透について、その方策について研究発表された。研究室利用、職員室利用のメリット、デメリット、さらに教員が職員室で執務する時間を増やすための取組などについて報告された。

### 研究協議 III

児童・生徒の登下校の指導と安全管理  
(三重県立特別支援学校玉城わかば学園 江崎 徹先生)

三重県立学校の教頭を対象として、アンケート調査を実施して各学校における生徒の登下校時の安全を確保するための組織体制づくりや、具体的な取組内容等について情報収集し、その結果分析・考察について発表された。

公共交通機関の乗車マナーと乗降指導、運行会社等との連携についての事例紹介、自転車の安全講習の実施さらに学校独自や地域との連携で実現している安全対策の事例、登下校中のトラブルで、対応に困ったような事例や逆に他機関とうまく連携して解決出来た事例などについて紹介された。

### 研究協議 IV

一人一人の生徒と向き合う教育を目指して～職員の共通理解・共通行動のための環境作り～  
(岐阜県立不破高等学校 棚橋 賀先生)

岐阜県立不破高校の取組について紹介された。自己肯定感や自尊感情を持てない生徒、物事を深く考えずにその場の雰囲気に流されて行動したり、高校入学以前から親や教師に対して不信感を持つ生徒、学ぶことに積極的でない生徒、発達障がいを有する生徒が多い状況に対して学校の取組が紹介された。文部科学省・岐阜県教育委員会から支援を受けての取組や学校独自の取組として、不破高等学校活性化協議会の立ち上げ、アクティブ・ラーニングを積極的に導入、生徒指導から生徒支援への名称変更、生徒や保護者の立場に立った校時の変更、ユニバーサルデザインの徹底やキャリア教育の推進が行われたことなどが紹介された。

どの発表も意欲的でわかりやすく、時間が経つのが早く感じられた。内容はいずれも今日的課題に対応したものであり、大きな示唆を与えた発表であった。

(愛知県立守山高等学校 教頭)



## 近畿地区



常任理事  
研究副部長 若浦 直樹  
兵庫県会長

### 近畿地区研究協議会報告

- 1 日時：平成 28 年 11 月 11 日（金）
- 2 場所：和歌山県自治会館
- 3 後援：和歌山県教育委員会・和歌山県高等学校長会・全国高等学校教頭副校長会・公益財団法人日本教育弘済会和歌山支部・公益社団法人日本教育会和歌山支部
- 4 講演：「発生工学と生殖医療の発展の歴史」  
近畿大学副学長、近畿大学生物理工学部教授 細井 美彦 氏
- 5 発表：  
①大阪府  
「エンパワーメントスクールの取組」  
大阪府立成城高等学校 教頭 吉田徹夫  
②滋賀県  
「本校の「学力向上・評価研究」の取組について～アクティブ・ラーニングに向けての授業改革～」  
滋賀県立甲西高等学校 教頭 片岡幸一  
③京都府  
「地域と企業を結ぶ「ものづくり人材」の育成～京都府立南丹高等学校総合学科テクニカル工学科系列～」  
京都府立南丹高等学校 教頭 大嶋浩樹  
④兵庫県  
「高校におけるインクルーシブ教育システム構築に向けて～個別支援・指導計画の作成のため

に～」

兵庫県立上郡高等学校 教頭 八十川洋一

⑤奈良県

「学校の組織力の向上」に関するアンケートから見えてきたもの～奈良県高等学校等教頭協議会平成 27 年度研修委員会の取組から～」

奈良県立西の京高等学校 教頭 藤岡宏朗

⑥和歌山県（誌上発表）

「伝統校の再生に教諭、教頭として関わって～いかにして失望のスパイラルから抜け出すか～」

和歌山県立耐久高等学校 教頭 戸川しをり

### 6 研究協議会において

それぞれの発表に対しての質疑応答がなされ、和歌山県教育委員会県立学校教育課課長小滝正孝氏、和歌山県立高等学校長会副会長西岡大修氏から、指導助言をいただいた。

①工業高校から総合学科に再編された新たなスタートを切った成城高校の取組についての発表でしたが、「生徒一人一人が持っている力を引き出す学校」をテーマに掲げ、毅然とした生徒指導、さらに学習面では習熟度別授業だけでなく、1 年に於いてモジュール授業を展開し学び直しを中心とした取組を展開、2・3 年に結びつけるようにしたことで、生徒の課題解決能力に刺激を与えることができている。

②県内中堅進学校として研究指定校としての取組の中から授業改革を行った。授業改革は教員の意識改革でもあり、他校教員も参加した研究授業を年数回実施。生徒の相互評価を取り入れたり、アクティブラーニング・協同学習を取り入れたりしながら成果の継続を図っている。

③商業科と普通科の併設学校から総合学科に改編。地域の要望を組んで平成 27 年度より工業科目を学べるテクニカル工学科系列を設置。工業実習棟の建設・施設設備の充実も同時にを行い、地元企業との情報交換により教育課程を編成するなど人材育成を図っている。地元の小学生や中学生を巻き込んだ事業も展開し、周知を図っている。

④兵庫県西播地域の高校にアンケートをとり、インクルーシブ教育の取組状況を調査した内容を発表。専門分掌の必要性や本人保護者との同意形成の重要性など合理的な配慮に向けての取り組みを継続し、生徒一人一人の自己実現に向けた体制づくりが必要であること、さらにはそのことで生徒が夢や希望を持ち安心して高校生

活を送る事が出来る学校づくりにつながることを強調した。

⑤教頭協会の取組として学校の組織力向上に向けた研究を実施。アンケート調査によりその課題を洗い出した。若手教員の増加、少子化に伴う子供を取り巻く環境の変化から来る学校教育の課題の複雑化多様化に対応できる力を養うため、教員集団が連携、協働する事で学校の組織力を高めることが重要であると結論づけた。

⑥通学区域の撤廃、併設型中高一貫教育の開始、高校入試制度の変更に伴い、進学校としての結果が伴わなくなってきた学校の再生を狙うための取組を発表。教員の意識改革を図ると同時に学校のチーム力を高める取り組みを紹介した。地域、保護者、生徒との信頼関係の回復により取組を継続していく。

講演については人工授精からクローン牛まで専門的な内容で講演され興味を持って話を聞くことが出来た。また発表に於いては、各県それぞれ特色のある学校からの発表、及びアンケート調査による研究成果発表により、今後多くの学校で抱えることになる課題が洗い出され、非常に参考になる発表であった。指導助言に於いても地域性を活かした学校の特色づくりが生徒の育成につながることの重要性について助言いただき、実り多き研究協議となった。

(兵庫県立神戸高等学校 教頭)

## 中国地区



全国常任理事  
研究副部長 藤本 茂  
山口県会長

中国地区では、研究協議会は隔年開催となっている。今年度は研究協議会を開催しない年であったが、12月6日（火）に倉敷市民会館で中国五県代表者会を開催した。今回の会議は、来年度岡山県倉敷市で開催される全国大会の準備委員会を兼ねたもので、参加者は、中国五県の会長（5名）及び岡山県の全国大会準備委員会関係者（6名）、計11名であった。

会議では、まず、岡山県から、全国大会の準備の経過報告として、準備委員会の設立、準備資料の入手や視察、会場の確保等、順調に準備が進められていることが説明された。

次に、開催要項に沿って、大会の日程や内容、会場等について説明があった。分科会については、岡山県が、管理運営部門は美作支部、高校教育部門は備前支部、生徒指導部門は備中支部という分担で、3部門の研究発表の準備を進めているということであった。地域や学校の特色を生かした取組について、示唆に富む発表を聞くことができるものと期待している。

予算に関しては、参加費・資料代収入について大会参加者500人を見込んでいるということであった。自県の会員数が決して多くない岡山県としては、中国地区の各県から積極的な大会参加をお願いしたい、ということであります。各県の見込み等について情報交換を行った。岡山県には準備、運営や発表などで大変な御苦労をいただいているので、他県は、できるだけ多くの会員が参加することによって、大会の成功に協力したいと考えている。

最後に、この機会に、各県における資質向上のための取組や、会長・事務局等の職の割り当てのシステムについて情報交換を行った。

今後も各県がお互いに連携をとりながら活動を充実させるとともに、来年度の全国大会が成功することを祈念して、報告といたします。

(山口県立山口高等学校 副校長)

## 四国地区



全国常任理事  
研究副部長 二宮 誠  
愛媛県会長

第31回四国高等学校教頭・副校長会研究協議会を、平成28年10月20日（木）・21日（金）に道後温泉・公立学校共済組合「にぎたつ会館」で開催し、四国四県から153名に参加していました。

今年は研究主題を「郷土を愛しグローバル社会を生き抜くたくましい人づくり～豊かな心と確かな学力を育てる教育の推進～」としました。学びを社会や生活に生かそうとする人材の育成は、次期学習指導要領の柱でもあります。

開会式では、来賓の全国高等学校教頭・副校長会事務次長 針馬利行様、愛媛県教育委員会教育長 井上正様、愛媛県高等学校長協会会长 北須賀逸雄様から御祝辞をいただきました。

開会式の後、越智今治農業協同組合商品開発

部長 西坂文秀様に、「商」からはじまる農業振興・地域振興」と題した講演をしていただきました。西坂様は、小規模化、高齢化、兼業化が進む農家を元気にすることを目指して、農産物の直販所「さいさいきて屋」をスタートさせ、アイデアを次々と形に変えて国内屈指の店舗に育てられました。また、学童農園や、高校生・特別支援学校生も加わった商品開発など、子供を育てることにも目を向けておられます。必要なものは身近で手の届くところにあるということに気付かなければならぬ、地元にこだわり続けることこそ地域が生き残る方法であるということを、身をもって示してくださいました。信念を持って生き生きと語られる西坂様のお話に、地域活性化の一翼を担わなければならない我々は引き込まれてしまいました。

御講演の後、研究発表及び研究協議を行いました。

1日目は、香川県立高松南高等学校 秋山文孝教頭、徳島県立徳島商業高等学校 守田裕史教頭、高知県立檮原高等学校 山本由美子教頭、愛媛県立松山南高等学校砥部分校 丸尾秀樹教頭の4名に発表していただきました。

秋山教頭は「生徒の多様性を等価値として尊重しており、更にそれを育む仕組みを文化として根付かせたい」、守田教頭は「商業教育の中心校として世界に発信できる人材を輩出するモデルづくりを目指している」、山本教頭は「地域との連携を深め現状と未来に眼を向けたプロジェクト学習を実施している」、丸尾教頭は「町の伝統産業を未来に継承し、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指す」と発表されました。その後、愛媛県高等学校長協会副会長 稲瀬吉雄様に御助言をいただきました。

18時からの教育懇談会は、針馬利行様、井上正様をはじめ多くの御来賓にも出席していただき、郷土料理に舌鼓を打ちながら、情報交換や歓談に時間を忘れる楽しいひとときとなりました。

2日目は、香川県立高松西高等学校 柴田節教頭、徳島県立新野高等学校 土井正史教頭、高知県立中村高等学校 田邊法人教頭、愛媛県立宇和島東高等学校 重松聖二教頭の4名に発表していただきました。

柴田教頭は「創設以来の 55 分 6 時間授業などきめ細やかで丁寧な指導を心掛けて信頼される学校であり続けたい」、土井教頭は「地域力を

生かした取組により、新野町を元気にし地域創生を担っている」、田邊教頭は「中高一貫教育校の利点を生かして、様々な取組を行い地域に貢献している」、重松教頭は「入学当初から先を見通した取組や様々な指定を活用した研究により、魅力ある学校作りを目指している」と発表されました。愛媛県教育委員会高校教育課 沖田浩史様に御助言をいただき、研究協議を終了しました。

2日間とも発表に熱が入り、十分な協議の時間はとれませんでしたが、8校の様々な取組は大いに参考になりました。

閉会式では、次期開催県である香川県高等学校教頭会会长 岸輝人様に香川大会の御案内も兼ねて挨拶をしていただき、無事に2日間にわたる研究協議会を終了いたしました。

今大会開催に当たり、御指導いただいた方々、各県の会長様はじめ会員の皆様、研究発表をしてくださった8名の先生、運営委員の皆様に心よりお礼申し上げます。

(愛媛県立松山商業高等学校 教頭)

## 九州地区



全国常任理事  
研究副部長 池田 豊昭  
佐賀県会長

平成 28 年 10 月 6 日 (木)・7 日 (金) の両日、グランデはがくれ（佐賀市）を会場として、平成 28 年度第 34 回九州各県高等学校教頭・副校長研修会佐賀大会が開催されました。

### ■ 10 月 6 日 (木)

#### (1) 開会行事

全国高等学校教頭・副校長会顧問・事務局長錦織政晴様のご臨席を賜り、ご挨拶をいただきました。また、佐賀県教育委員会教育長の古谷宏様及び佐賀県高等学校長協会理事の辻太嘉志様にご祝辞をいただきました。

#### (2) 講演

開会行事に引き続き、特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス代表理事の谷口仁史氏より講演をいただきました。「不登校、ひきこもり、非行、ニート等アウトロー（訪問支援）と重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」という演題で、従来のカウンセリングのように「来ることを待つ」のではなく、積極的に「訪問支援」を行うアウ

トリーの必要性を一貫して話していただきました。また、子供・若者が抱える問題が深刻化・複合化している現状を紹介され、表面的な見方でなく、問題化した背景などを多面的・組織的に見ていかなければならぬことに、問題の根深さを感じました。

### (3) 研究・実践発表及び質疑応答

宮崎・熊本・鹿児島・佐賀の4県より、研究・実践発表が次のように行われました。

#### ①「時代の変化に対応した農業高校の取り組み」

宮崎県立高鍋農業高校教頭 萩原浩二先生

農業経営者の育成を本校独自の寮教育を柱として、次の取組を行ってきた。

・県立農業大学校と連動した農業教育の取組

・平成 22 年に口蹄疫が発生し、本校でも乳牛・肉用牛・豚を殺処分の悲しい出来事を体験し、改めて、防疫教育の徹底及び農場と連動した教育内容の見直しを行った。

・6 次産業化を学んでいくために、新しくフードビジネス科を新設し、定員確保を図る。今後、宮崎県農業の担い手を新しい視点を持ちながら育てていきたい。

#### ②「A R A • S H I の学校改革プロジェクト」

熊本県立熊本支援学校副校長 堀川丞美先生

熊本県立荒尾支援学校は、子供と向き合う時間の質の向上のために次の取組を行った。

・「職員会議の原則廃止」「ノーアクティビティ」「2 学期制の導入」を行った結果、生み出された時間を有効活用し、時間外に行って支援会議や現場実習先への訪問・あいさつなど、充分に時間を取りができるようになった。

・教える人が変わっても、変わらない教育の質を担保する取組を行っている。

・「21 世紀型能力」を見据えた、アクティブ・ラーニングの視点を入れた授業の実践。

・「何よりも、子供たちのために！」という気持ちをずっと持ち続け、より良い学校づくりに取り組んでいきたい。

#### ③「再起動！串高～地元と共に未来をつくる」

鹿児島県立串木野高等学校教頭 小牧剛先生

国公立大学合格者を増やすことや募集定員確保に向けて、取り組まれている串木野高校の実践例を次のように示された。

・市長を中心として、「串木野高等学校対策協議会」が設立されている。

・普通科の中に開設していた「商業コース」を廃止し、「内部特進コース」を新たに設けた。

・全職員がいろいろな指導に携わり、学校が「勉強する場所」として定着して、東京学芸大学推薦入試合格等の実績も上げ、生徒の態度も落ち着き、服装や挨拶に効果が出ている。

・職員の意識改革と「人」の力を大切にしながら、学校をつくり、人材育成を図っていく。

#### ④「佐賀県における I C T 利活用教育の実践」

佐賀県立神埼高等学校教頭 坂本明弘先生

・C A I (Computer Assisted Instruction) や教育用ネットワークシステムを利用して教育関係の情報交換などを運用した。

・試験的に導入された仮想電子黒板ツール(通称ブーメラン)を用いて、教材提示と、板書を併用した授業を展開した。動画や写真を活用した授業も実践した。

・現在、情報機器は私たちの日常生活の一部になっている。今後、ICT はさらに利活用されると考えられるが、まさに、これから教師に求められるスキルである。そのためには産官学が協同しながら事業を整備し、展開していく必要がある。

### ■ 10 月 7 日 (金)

#### (1) 各県実情報告及び質疑応答

前夜の教育懇談会の余韻が残るなごやかな雰囲気の中で、各県実情報告が始まりました。

各県の会長等より、各県の会員構成や活動状況および教育施策等を発表していただきました。

どの県の発表においても、いろいろな形でグローバル人材の育成に力を入れられていました。また、キャリア教育や主権者教育、アクティブ・ラーニング等の発表がありました。一方、少子高齢化における高校再編の問題も改めて浮き彫りになりました。

#### (2) 閉会行事

次期開催県である長崎県の平山啓一会長より、日程が「長崎くんち」と合っているので、どうぞ長崎へと挨拶をされ、本大会が締めくくられました。

(佐賀県立致遠館中学校・高等学校 副校長)

# 第3回全国理事研究協議会報告

事務局長 錦織 政晴

## 1 第3回全国理事研究協議会

平成 28 年度、第3回全国理事研究協議会を 11 月 28 日（月）に、アルカディア市ヶ谷にて開催いたしました。

全国から 98 名の理事が参加し、本年度事業中間報告、会計中間報告、監査報告を行った後、文部科学省初等中等教育局教育課程課長の合田哲雄氏による「成熟社会に相応しい教育課程と学習指導要領改訂」と題した講話をいただき拝聴いたしました。

その後、東京大会報告、来年度事業計画案、岡山大会の準備状況などについて意見交換と協議を行っていただきました。

## 2 議事

- ①平成 28 年度事業中間報告、会計中間報告、監査報告、平成 29 年度年間行事計画および事業計画など
- ②東京大会報告ならびに決算報告、岡山大会の準備状況報告など
- ③特別調査報告

平成 28 年度の北信越地区（富山県）より「高等学校における主権者教育の取組について」の



本部役員と北海道、東北、関東（茨城）地区の理事



東海、近畿、中国（鳥取、島根）、北信越（福井、長野）地区の理事

報告がありました。

## ④地区研究協議会報告

各地区から地区研究協議会の概要について報告がありました。

## 3 講話

6 月 27 日の第 1 回全国理事研究協議会での浅田和伸文部科学省大臣官房審議官による「教育再生実行会議の動向について」に続き、学習指導要領改訂の最新情報の講話をいただきました。

## 4 理事情報交換会

毎回、全国理事研究協議会の後には、理事情報交換会を開催し、各地区・県市の教育課題や教育改革の進捗状況について、様々な情報が交換されております。1 時間半という限られた時間ですが、教頭・副校長の職務範囲の広さと新たな課題出現の現状が改めて認識される機会となっております。

## 5 その他

会費の納入と各都道府県市研究論文等掲載誌の事務局への送付をお願いします。



関東、東京、北信越（新潟、富山、石川）地区の理事



中国（広島、岡山、山口）、四国、九州地区の理事

## 事務局だより

事務局長 錦織 政晴

- この会報の発行に際してご多用の中を原稿をお寄せいただいた先生方にお礼を申し上げます。今年も小芝会長は瀧澤顧問と事務局とで分担し全国の地区の研究協議会に参加をし、地区の先生方と交流を深めることができました。今後も可能な限り継続できればと思っております。
- 今年は6月の第1回理事会の際には、文部科学省大臣官房審議官の浅田和伸先生から、8月の第2回理事会では株式会社ベネッセコーポレーション英語・グローバル事業開発部部長の藤井雅徳氏から、11月の第3回のときは、文部科学省初等中等教育局 教育課程課長の合田哲雄先生からのご講話・ご講演をいただきました。これからもこのような企画ができるだけ取り入れていく方針です。  
※これらの講話・講演は調査研究集第40号に掲載予定。

① 平成29年度行事日程

- 5/12(金) 全国監査・役員会 東京(事務局)  
 5/22(月) 全国総務部会① 東京  
 6/19(月) 全国理事会①・地区協議会  
     東京(アルカディア市ヶ谷)  
 7/7(金) 全国総務部会② 東京  
 7/26(水) 全国研究部会・理事会② 岡山  
 7/27(木) 全国大会 第1日       "

7/28(金) 全国大会 第2日     岡山  
 10/13(金) 全国中間監査・役員会 東京  
 10/27(金) 全国総務部会③ 東京  
 11/20(月) 全国理事会③東京(アルカディア市ヶ谷)

② 全国大会について

- ・平成29年度 中国地区  
 主管 岡山県高等学校教頭・副校長会  
 場所 岡山県倉敷市  
 期日 7月26日(水)～28日(金)
- ・平成30年度 東北地区  
 主管 宮城県高等学校教頭・副校長会  
 場所 宮城県仙台市  
 期日 8月1日(水)～3日(金)

③ 刊行物等

月刊高校教育(学事出版)に毎月「教頭・副校長会だより」と「教頭日誌」(教頭のホンネ)を掲載しております。ご一読賜れば幸いです。

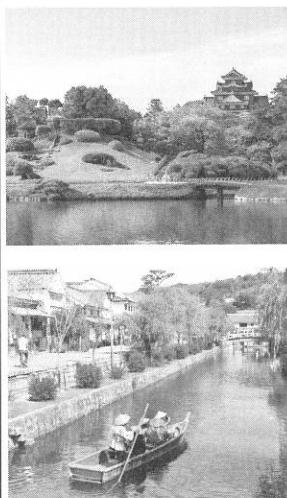
## 会報 第96号

発行日 平成29年1月30日

発行者 全国高等学校教頭・副校長会  
(非売品)

編集人 錦織政晴    発行人 小芝一臣  
 〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-28  
     ナーベルお茶の水2階  
 電話 03-5840-6104  
 FAX 03-5840-6108  
 E-mail:info@zenko-kyotou.jp

印刷所 株式会社リヨーワ印刷  
 電話 03-3378-4180



### 第56回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会

- 1 目的 全国高等学校教頭・副校長の連携を図るとともに、高等学校教育の諸課題について研究協議を行い、時代の進展に即応する教頭・副校長としての資質の向上と高等学校教育の充実を図る。
- 2 主催 全国高等学校教頭・副校長会
- 3 主管 中国地区高等学校副校長協会(主管 岡山県)
- 4 後援 文部科学省  
     岡山県教育委員会    倉敷市教育委員会  
     全国高等学校長協会    岡山県公立高等学校長協会 等申請予定
- 5 期日 平成29年7月26日(水)～7月28日(金)
- 6 開催地 倉敷市 倉敷市民会館ほか